

『ふるむ・マラウイ』～ケープ・マクレア～

1st /August/2012 第27号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

東アフリカの大地溝帯には、ビクトリア湖(タンザニア)、タンガニーカ湖(タンザニア、コンゴ)、マラウイ湖と大きな湖があります。その中でもマラウイ湖は一番小さいですが、南北約580km、東西15～80km、最大深度約700m(ブリタニカ国際大百科事典より引用)に及びます。マラウイ湖はマラウイ国土の20%を占め、旧称はニアサ湖(現地語でたくさんの水の意)と呼ばれていました。マラウイの旧称もニアサランドといいます。ここに生息する魚の多くは固有種で、生物学的にも貴重な湖となっています。また、マラウイ湖で獲れる魚は、マラウイの食卓に欠かせない物です。今回紹介するケープ・マクレアは、マラウイ湖の南部にあたり世界自然遺産にも登録されている所です。湖水は生活用水としても使用されています。外国人が経営するロッジ(宿泊施設)が数多くありますが、集落の雰囲気は漁村そのもので、観光客はリゾートというよりもより地元の生活の雰囲気を味わうことができると思います。



湖岸からのぞむマラウイ湖



網を修理中の漁師



生活用水として湖水を利用している

